

## 令和5年度 第3回東京都サービス管理責任者等研修検討会 議事録【要旨】

日 時 令和5年11月17日（金曜日）午後3時から午後5時まで  
 開催場所 東京都福祉保健医療研修センター902,903 教室  
 出席者 妹尾委員長、会田副委員長、橋爪副委員長、宮田副委員長、清水委員、徳武委員、  
 小出委員、丹澤委員、岡田委員、樋口委員、渡辺委員、横山委員、皆川委員、吉田委員  
 （欠席 相良委員）  
 事務局 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長 外川 他3名  
 公益財団法人総合健康推進財団職員 2名

### 1 開会

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料確認（事前にメールにて送付済み）</li> <li>次第</li> <li>資料1 令和5年度サービス管理者等指導者養成研修（国研修）受講報告</li> <li>資料2 令和6年度サービス管理責任者等更新研修実施方法案</li> <li>資料3 東京都のサービス提供事業所において障害児者の豊かな生活の実現に向けて取り組む現場リーダーの姿Ver. 5</li> <li>・研修の委託先である公益財団法人総合健康推進財団の職員の方も参加している。</li> <li>・記録のために速記者の参加と録音をさせていただくこと、また今回の検討会議事録（要旨）はホームページでの公開対象であることを了承いただきたい。ただし、資料については出席委員の意見により公開・非公開を決めることができる。</li> <li>・国研修に参加報告予定の東京都相談支援従事者研修検討会委員の安井さんが急用で欠席になった。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討事項に入る前に総合健康推進財団の事務局の方から現在の研修実施状況の報告をお願いしたい。</li> </ul>
総合健康推進財団	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点での内容を報告する。</li> <li>【基礎研修】</li> <li>・第1回は受講決定者1,256名、動画未視聴は141名。演習には1,022名が参加。現在実施の第2回基礎研修の受講決定者は923名。演習には11月17日時点で813名が出席。110名については、動画未視聴。演習はA日程からI日程まで全9コースで実施をし、11月11日時点でB日程まで終了。最終回はI日程で、12月14日まで。</li> <li>・その他として、11月6日にオンラインでファシリテーター等説明会を実施し、32名が参加した。12月25日にオンラインで振り返り会を実施予定。</li> <li>【更新研修】</li> <li>・受講決定者が1,178名、演習に参加が1,097名、演習に参加しなかった方は基礎研修同様に動画未視聴の方。演習を今年度は会場型で実施した。9月27日から10月5日までの全14コース。演習は全日程無事に終了し、修了認定中。</li> <li>・10月13日に振り返り会を実施し、検討委員を含む9名が参加。</li> </ul>

	<p><b>【実践研修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月3日から17日までの間募集。定員1,500名、申込み者数が1,216名、現在は受講者を選考中である。</li> <li>・この後の予定、動画配信を1月5日から9日、そして演習2日間の日程で会場型演習を1月16日から2月29日までの全15コース実施。またファシリテーター説明会を1月8日の祝日に実施する。</li> </ul> <p><b>【専門コース別研修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回で受講決定者が202名、10月11日から13日まで実施した。申込者のほとんどが修了し、現在修了認定中で追って修了証書を送る。</li> <li>・第2回は1,150名募集のところ申込者が150名、10月26日で締め切った。研修は1月17日から19日までの3日間で実施。受講者は現在選考中。</li> </ul>
--	--

## 2 検討事項

### (1) 令和5年度サービス管理責任者等指導者養成研修会（国研修）受講報告

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討事項に進みたい。議事の一つ目、令和5年度サービス管理責任者等指導者養成研修、国研修の受講報告に入りたい。研修の概要と研修受講状況について事務局から説明をお願いしたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国研修の報告の前に、委託の研修内容について、財団から説明いただきたいが、直営の演習指導者養成研修について報告をする。</li> <li>・各事業者から推薦いただき、受講者8名登録。初日を10月30日に行い、ファシリテーターの基礎知識や技術、基礎研修などについて学び、研修の2日目に当たる基礎研修ファシリテーター説明会を11月6日に行い、第2回目基礎研修のファシリテーターを各日程で担っていただく。12月25日に3日目となる指導者養成研修にてファシリテーターに取り組んでみての振り返りをする事になっている。</li> <li>・引き続き国研修について、専門コースを9月12日に、それ以外のコースについては9月13日から15日までの3日間で開催された。東京都からの参加は基礎研修コースに横山委員、実践研修コースに清水委員、更新研修コースに会田委員、自治体職員コースに私を小野瀬が、専門コース別研修の意思決定支援研修コースに徳武委員、障害児支援研修コースは宮田委員と相談支援従事者研修検討会の安井委員に、就労支援研修コースは渡辺委員に参加していただいた。参加した方々から報告書を提出していただき、今回資料1として配布している。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国研修を受講された委員から報告をお一方5分程度の形をお願いしたい。まずは基礎研修コースの横山委員からお願いしたい。</li> </ul>
横山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国研修で伝達されたことは、基礎研修の対象者は入職より3年目の方を想定したレベルということで、経験や知識の不十分さがあるが、プロセスの理解に気づけることと伝達されている。</li> <li>・分野の違いで取り組みにくい場合も、他分野を知ることを説明し、伝達してほ</li> </ul>

	<p>しいということ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな目標としては、個別支援計画の原案が作成できること、相談支援専門員との連携の理解を深めるようにということ。</li> <li>・これらが大枠として、実践研修とのつながりを意識した研修をしながらも、実践研修と明確に区別するようにといった伝達があった。</li> <li>・2日目に関東近隣の皆さんと意見交換をした。どの県でもファシリテーターの人材不足が課題にあった。しかし福祉施設自体が人材不足である中、ファシリテーターとして研修に出ることに意義もあるが現場が回らなくなる現実もある。</li> <li>・ファシリテーターの確保についても自分たちの力だけでは解決できない部分を自治体の皆さんとも協力しながら解決できると良く、それがいずれはファシリテーターのスキルアップにもつながるし、自治体全体のスキルアップにもつながるといった話にまとまった。</li> <li>・伝達されたことを都の研修と関連づけて考えたことは、基礎研修は入職3年目が想定ということだったが、実際、現場経験年数はありながらも福祉的な用語や専門的な知識は不十分な方も多くいることから、基礎研修の講義や演習部分でもう少し理解に近づけるような工夫が必要でないかと思う。</li> <li>・サビ管研修の中でも区別であったり関連であったり、他分野を知るといった点は現在の基礎研修の内容の中に大分盛り込んでいるかと思うので、更にブラッシュアップを図りながら検討していきたいというのが基礎研修の報告となる。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践研修の清水委員からお願いしたい。</li> </ul>
清水委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番、国研修で伝達されたことは、実践研修が始まって3年経過し、これから成熟してくる研修との話があった。さらにOJTも本格的に開始されることで、ブラッシュアップをしていきながら、より良い研修にしていくところである。ひとまず3年経過したところを一旦みんなで共有したことが主な部分であった。</li> <li>・特にスーパービジョンの理解が今後必要になってくる。更新研修でもスーパービジョンの研修が入ってくる。更に相談支援専門員との連携が大事に。実践研修では、組織のこと、また個人、組織、個人といった構成になっていて、最後には心の糧にちゃんと立ち戻るストーリー性のある研修プログラムになっている。</li> <li>・その中で人が人を知る支援の難しさ。ここを大事にするのが実践研修の目的であるとの研修の意図とストーリーの確認があった。</li> <li>・また、テンポよく研修を進めることが大事ということが随時強調されていた。内容がなかなか深い部分とか難しい部分もあるが、テンポよく進めていくということが講師から話があった。</li> <li>・三つ目がそのストーリーをできれば変えないでもらいたいと講師から話があった。</li> <li>・いろいろ自治体で順番と時間配分等も工夫しているところはあるが、講師からは、この順番が大事であるということが何回も話されていた印象である。</li> <li>・二つ目、意見交換で得た情報として、やはり自立支援協議会のワークが大変でどこ</li> </ul>

	<p>も難しいというところで、その中ではなるべく地域が近い場所で事業者同士をグループ編成しているといった話もあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そういう点では、地域の共有と課題解決の何かのきっかけなんていうところを意図しているところもあるそう。そして、今実践研修では事例検討との言葉を使いながらやっているが、ここがスーパービジョンと混同して分かりにくくなるところが予測されているので、こちらがこの事例検討とは何か、スーパービジョンとは何かという定義のところをしっかりと説明していくということが今後大事になるといった意見交換がされた。</li> <li>・三つ目、伝達されたことを研修と関連づけて考えるということで、これから成熟されてくる研修であることを踏まえて、現状のところと受講者の理解度も含めて、このような会で研修内容の共有と理解度を上げることがまだ大事で、またブラッシュアップしていく時期が更に数年後に来るのかなというところである。簡単ではあるが研修報告は以上になる。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更新研修の会田委員からお願いしたい。</li> </ul>
会田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国研修で伝達されたこととしては、一つは重要事項の説明として、基礎研修修了後に例外的に6か月以上の期間で実践研修の受講が可能になるということ。</li> <li>・研修を企画、立案する際のポイントの一つとして、各研修共通として、サビ管としての位置づけや心構えとしては、自事業所の利用者、職員だけでなく地域や関係機関など外に目を向けることが大事という話が出ていた。サビ管同士のつながりをどう作るか、サビ管ならではのやりがいということに3Kという言葉が出され、「かっこいい、希望、食っていける」、これがやりがいとして伝えられるようにとの話があった。</li> <li>・人材育成をどうしていくかについて、研修を企画すること自体が人材育成になるので、そこでいろいろな人たちと携われるようなネットワークの機会を作っていくことが育成であると学んだ。</li> <li>・研修の企画立案のポイントの2番目として、更新研修のねらい、テーマとしては自己検証になるので、そこには当然施策の最新の動向だったり、自分の事業所の質の向上をどう図るかだったりがあった。</li> <li>・令和6年度からはスーパービジョンに関する講義及び演習で7時間を実施しなければならないのが一番大きな課題かと思っている。スーパービジョンの講義が3時間と事例検討のスーパービジョンが演習1時間、職員へのスーパービジョン演習2時間、まとめ1時間を今後どう作っていくかというところ。</li> <li>・事例検討のスーパービジョンは国研修の事例の書式で行ったが、事例を実施するには都道府県ごとに作成するか、受講生から事前に事例提供者を決めるのが望ましいとなった。今回は、国研修の事例を使ってグループスーパービジョンを行っていたので、受講生から事例提供を求めると個人情報の扱いとか、どれを選ぶかが非常に難しいので、こちらである程度事例を用意して、スーパービジョンを実施するという進め方が良いかと思った。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者から質問時間を設けて事例提供者がアセスメントを深めていく取り組みをしたが、分からないことは無理に答えようとするのではなく、分からないと答えることで何が分からないかを確認するということが出ていた。</li> <li>・最後は、アイデア出しをグループごとに個人ワークで行って、各グループから発表し、事例提供者に選んでもらうという形であった。国研修だと40人ぐらいで行ったが、更新研修が大体1回100人ぐらいだったか。さすがに100人で事例検討はできないと思うので、そうすると最低二つに分けないといけないのかなとか、でもそうするとまた事例提供者のファシリテーターとか、進行役のファシリテーターをどう確保するのかとか、ちょっと非常に悩ましいと思いつつ聞いていた。</li> <li>・意見交換で得た情報は、群馬県は60分版のスーパービジョン講義を実施していると、栃木県は事前課題を予め入力フォームでデータ提出してもらい、事前課題をどんなふうに取り組んだかファシリテーターも分かるようにして取り組んでいるという話があった。</li> <li>・埼玉のスーパービジョンは悪い例を動画配信して、受講生にポイントを伝えているといった話が出ていた。</li> <li>・伝達されたことを都の研修と関連づけて考えたこととしては、スーパービジョンについては、お手本のような場面を講義か演習で載せないで、当日「さあやってみましょう」というのはなかなか難しいかと思った。基礎や実践研修でも動画で手本を流しているので、そういった取組ができたほうが良い。長くなったが報告とする。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。次は自治体職員コースをお願いしたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国研修で伝達されたことは、研修の目的に立ち戻って、サービス提供者が量的に拡大、倍増しても、質の確保を保つということを改めて言われた。また、地域づくりが取り上げられ、国の検討会委員のシンポジウムという形で、各委員が地元の話を例に参加ができる可能性を具体的に話された。実際には相談支援従事者とサービス管理責任者との連携など問題があり、まずはそこからかとの問題提起もされた。</li> <li>・今回、実践研修の受講資格で基礎研修終了後の原則2年の例外が設けられたことについて説明があった。あくまでも事前に届出をし、OJTを実施した方ということがポイントで、今回遡及が行われ、遡及の考え方などが都道府県でそれぞれになっていることも言及があった。今後はあくまでも事前届出制だと繰り返し話があった。</li> <li>・意見交換では、ファシリテーターの不足が全国的な課題で、2日目は基礎研修のカリキュラムに参加している中で、不足にも地域ごとの特性があり、対応が違った。</li> <li>・神奈川県が基礎研修を1日でやり切るため、朝9時前から19時ぐらいまで行い、7～8人に1人ファシリテーターが付くという。時間の制限が強いので、ファシリテーター側の誘導もあると感じるという話があった。</li> <li>・千葉は、4、5人のグループを3、4つずつに1人のファシリテーターを付ける。受講者のグループを小さくして受講者間の検討や交流が進み、ファシリテーターの少</li> </ul>

	<p>ないことが補われているという話もあった。なかなか不足を補うのは難しい、配置だけの問題ではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3日目は自治体職員だけが集まり、課題はファシリテーター不足についてどう対応するかということ。地域で受講者数の差が激しいので、その規模に応じてグループに分かれ、どうやっているかを話した。東京は大阪・神奈川・静岡・福岡と同じグループとなる。大阪と東京が2,000人規模で基礎研修をやっている。次は、神奈川1,000人規模、次に多いところで静岡と福岡が出たが400名ちょっとの規模になる。東京は2,100人で500、600人が不受講になる方もいるが、大阪は2,200人ぐらいの規模に倍の4,600人ぐらいの応募があるそうだ。</li> <li>・ 施設数や自治体の規模を考えると本当に必要な人が希望しているか疑問であった。</li> <li>・ 大阪も神奈川も福岡も受講の優先順位は低いが、県外の方の応募に応じている。</li> <li>・ 伝達されたことを都研修と関連づけて考えると、演習が重要でファシリテーターの存在が不可欠ということ。事業者からも研修の規模の拡大など求められるが、やはりファシリテーターの協力がなければ拡大していけない。都において説明していきたいと思った。</li> <li>・ また演習指導者養成研修は、募集のスケジュールを見直し、周知期間、応募期間を設け、段階を踏んで知っていただくよう、来年のスケジュールを今検討している。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次に専門コース別研修部分ということで、意思決定支援の研修コースを徳武委員にお願いしたい。</li> </ul>
徳武委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修は、意思決定支援の動向から始まり、平成28年度末に意思決定支援ガイドラインが出されて以降、重要性は様々な社会保障審議会の報告書や次期障害福祉計画の基本指針などで謳われ、意思決定支援の重要性がますます高まっている中で、専門別研修は昨年度は22自治体、今年の実施予定は26都道府県で半分を超えるところまで来た。全ての都道府県で意思決定支援研修を実施できるように是非促進していただきたいと繰り返し言われた。</li> <li>・ 実際の研修内容は意思決定支援ガイドラインの必要性をグループワークで確認した後、基本的な考え方や意思決定ガイドラインを講義で確認。その後、実際事例の動画を見てグループディスカッション、そして最後に情報収集の重要性といった流れで、国の研修を体験という形で行われた。</li> <li>・ 36時間をフルでやらなきゃいけない訳ではなくて、短縮をすとか、講義部分のオンデマンド配信とか様々な工夫をしいのでないかとの話もあった。</li> <li>・ 実際、研修を実施するには、事例の動画作成とか講義部分の取りまとめ等々、十分な準備が必要ではないかと思った。やはり現場のサビ管、児発管等にとって、日々意識して取り組みたい大事な内容だと改めて受講して思った。</li> <li>・ 今後どういうふうに進むか分からないが、実施に向けて取り組むというような方向で検討してもらいたいと研修を受講して思った。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それでは障害児支援研修コース宮田委員からお願いしたい。</li> </ul>

宮田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国研修で伝達されたことは、サビ管、サビ児管と相談支援専門員の合同研修にしてほしい。都はサービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の研修となっているが、合同にしてほしいと繰り返し言われた。受講のタイミングとしては相談支援専門員であれば現任研修の前で、サビ児管であれば基礎研修受講か実践研修の受講前、または実践研修の受講直後くらいにできるといいと言われた。</li> <li>・今、都道府県で行っていると思うが、標準カリキュラムに寄せてほしいとすごく言われた。その後に行政説明が最初にあったが、これは標準プログラムには含まれないとのことだった。</li> <li>・こども家庭庁の説明を聴き、子ども分野をやるのであれば必要な内容という感じで説明があるといいと思った。その後に標準プログラムがあったが、膨大な資料の中から抽出して説明で、そのままではできないと思ったが、実際にする場合も資料を抽出してほしいと言われた。</li> <li>・研修は、児童期における支援提供の基本、支援提供のポイント、発達支援とはというのと、その後に相談支援を目指す方向性、その後に相談支援が出てきて、支援提供プロセスのような流れになっていた。</li> <li>・事例もA君が出てきて、それを使った演習では、相談支援専門員の立場、児童発達支援管理責任者立場の支援の違いをそれぞれ体験する演習になっていた。</li> <li>・意見交換はいろいろな自治体と行った。現在の児童障害児の専門コース別研修がサビ管側、相談支援付いている県がそれぞれあり意外だった。やっぱり合同にするのにはなかなか難しいなどの話があった。</li> <li>・伝達されたことを都研修として関連づけ考えたが、確かに相談支援専門員は対象として含んでいけるといいかと思った。やっぱり子ども対象の相談支援専門員はなかなか現場にいないイメージがあり、情報交換でも同感との話もあったので、そういう点で情報交換の場にもなるといいかと思っている。先ほども話したように行政説明やこども家庭庁の説明はあった方がいいと思った。</li> <li>・あと実施のタイミングだが、結構、内容が難しいなと感じたところで、基礎研修が終わった人に相談支援との連携を考えましようと言われても、とてもじゃないが難しい。今までは子どもに対する支援の基本を学ぶみたいな感じだったが、支援が広がる感じになるので基礎研修直後にするのか、実践研修受講後にするのかで、内容や理解度の目標値が変わるという感じがして、やはり相談支援専門員との連携まで含むと理解しきれない、基礎研修後ではどうかと思った。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。就労支援研修の渡辺委員にお願いします。</li> </ul>
渡辺委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国伝達のときには、就労支援施策の動向は内容が時々で変わるだろうということで、今回は就労選択支援のことで令和6年度に雇用率の改定の内容など話されていた。</li> <li>・就労支援のことを知らないサビ管の方がこの内容を聞いて混乱するところもあったと思うが、就労支援をやるのであれば重要なところ。この就労支援コースの内容がすばらしいが、福祉現場のサービス管理責任者が果たして任意でこの研修を受けてくれるか、また内容が職業センター、ナカポツセンターなど指導支援、障害者就労支援</li> </ul>

	<p>のプロの方々が作られた映像、資料が膨大にあった。サービス管理責任者の人たちがこれを頭に入れていくのは疲弊してしまうとの心配がある。後ほど説明したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国から伝達されたことは、最近の施策のことや、福祉的な就労と企業的な就労の視点を明確にしてほしいというようなこと。その地域の障害福祉施策計画などに、果たして自分たちの就労系福祉サービスが求められているのか。その役割や明確な数字的なことを振り返る機会を設定してはどうかというような話も出ている。</li> <li>・4番のところを本当に専門的なところで、もともと私は就労支援センターにいたこともあるので、内容はすぐ分かるが、やってみないと分からないことはたくさんあった。ただ演習を盛り込むことで例えば企業アセスとか本人アセスのところはどうしていくか分かると思っている。</li> <li>・5番の企業経営は難しかったが、福祉サービスの事業所も企業の経営という位置づけもあるということで経営の分野。</li> <li>・6番の職務分析作業指導、これも技法なので就労支援機関の技法をB型でも採用することで就労系の福祉施設のスキル、利用者支援の幅も広がるのではということで参考にもなると思っている。</li> <li>・7番のところの内容は、相手は業者であって質問項目を聞き続けるだけではないという関係性のところを深められるとか、あとはその8番、最後の面では本人に対するアセスメント以外の企業アセスという、あまり福祉系の方々には機会が少ないが、就労系の施設であればここは絶対落とせないなというところでは視点としてはすごく大事ななというふうに思うので、この辺をどう伝えていければいいのか少し課題だと思っている。</li> <li>・意見交換のところ、実施した場合に専門別研修に参加する方がいるかなという話でかなり盛り上がった。</li> <li>・専門別の内容はとても役に立つものなので、ぜひ受けてもらいたいという反面、あまりにも参加人数が少ないともったいないし、誰でも参加できるようにすると質が下がってしまうかということで、どうしたものかという話が出ていた。</li> <li>・就労選択支援に関しては未確定なところがあるので、もう少し確定したものを伝えることが大事だとか、今後雇用率の改定があるので、就労継続B型の方々、Aも含めて、働き方の形が変わるのではないかと。ただ、その変わったときの支援体制をどう組むかというところで、まだ課題があるかと思われる。</li> <li>・6番の就労系事業所に分かりやすく説明する必要があるので、どこまで時間をかけるのか、埼玉県が実施したという話を聞いているが、かなり内容を詰め込まれてしまったので、内容は精査しなければいけないような話も出ていた。この演習を1日だけで終わらせるのは難しいというのと、どこか関西の地域では2日間かけてみっちりやったと話を伺っている。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。質疑の前に、本日欠席となった相談支援従事者研修検討会の安井氏の資料は事務局から補足などあるか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料をお読みいただきたい。</li> </ul>

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、お読みいただきたい。皆様から報告をいただいた。質疑応答にしたい。</li> <li>・報告された方以外で、お一方ずつ意見いただきたい。質問、感想、ご自身の研修検討グループに引きつけて気になったところなどお願いしたい。</li> </ul>
小出委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に研修の中身が濃くなっていると感じるので、自分自身も基礎研修、更新研修と受けてきていて、実際現場で働いている人がどれぐらい残っているのか、正直気になるところ。職場から研修に出しても退職される。異動してきた職員が他県から就職した中で、東京都の中でサビ管、児発管として働けるのかと聞かれたことがある。都道府県をまたいで研修ができるのか。国研修は皆さん参加されているが、実態としてはどうだろうとか。研修の内容が都道府県によって違ってくれば、そこで働くというところにも影響を及ぼす。でも都道府県を越えてでも使えるのであれば、さっきの何かのやりがいにもつながる。</li> <li>・研修は、結構ボリュームがあるが、実際の現場はどうなのかと。サビ児管になることは、会社の中で求められているのであって、個人の力量なり、スキルアップ、ステップアップとして使っているのかも少し疑問の中でバランスが難しいと思っている。どうやってこの良い研修を実務に活かせるのかというのが気になった。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貴重な問題をありがとうございます。樋口委員のほうからお願いしたい。</li> </ul>
樋口委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渡辺委員からも話があったようにすごく研修が増えているのと、現場が年々大変になっている中で、サビ管になるための研修も三つになった。これ以上他の専門別の研修があったときに、支援の質としてはメリットがあると思うが、事業所としてのメリットがない中で、どこまで事業所から人が出せるのか整理できるのか。国の理想としているものと現場とがもう少し一致するような研修をというところ。</li> <li>・サビ管の研修の中にも相談支援専門員との連携という言葉がすごく入ってきているが、相談支援専門員も毎月モニタリングがない中で、経営的にも難しい現状があり、サービス管理責任者としてもどこまで相談支援専門員を頼っているのか、逆に相談支援員にあまり頼り過ぎてしまうと、サービス調整以外のところに実働求められて大変だということ。連携という言葉はすごく簡単に抽象的だが、その中身を何か国としてもきちんと考えていただき、サービスとして支援員の人たちが生活していけるようなものにしていかないと。何か頑張れる人だけが福祉業界を背負っていくみたいなの、例えばファシリテーターもだんだん減っていったところを感じながら、東京としてもいろいろ意見を言えたりすると良いかというのは感じた。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。次、橋爪委員。</li> </ul>
橋爪副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅れたため途中から聞いた話だが、僕も似たような感想を持っている。良い研修がどんどん増えると聞くと納得するものも多いが、それを受け止められる事業所側のパイの問題も含めて難しいのかなと。やっぱり事業所が受け止められる分量にまとめて、その上でのカリキュラムでないと、行った人間はどうにか受け止めたとしても、それが事業所に帰ってくるという実感としてはなかなか難しいというのが受けている上での感想である。</li> </ul>

岡田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印象に残ったのは3Kという言葉。「かっこいい、食っていける、希望」と聞いたときに、ちょっと失笑しちゃっている自分がいて、でもサビ管、児発管の現状を物語っているのかと少し反省していたところである。</li> <li>・昨年度から演習指導者養成研修に関わらせてもらっているが、現状でファシリテーターが今何人ぐらいで、どのくらいが辞めたのかということもよく分かってないまま演指研をやっていることも良くなかったと少し反省しているところ。</li> <li>・自分の法人や知り合いに紹介したり声をかけたりしているが、ファシリテーターもなかなか研修に出ることが難しく、今一番のネックかとは思っている。でも経験としては、次につながる良いものになると思っている。どうすれば周知できるのか、何人ぐらいいけばいいか。例えば研修も回れるのかということも今後見据えていかないといけないか。今までの経緯で20人想定みたいな感じで考えていたが、実際何人いたらいいのかもよく考えていなかったと反省したところ。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やっぱり量と質の担保をどうしていくかはずっと課題かなと思うのと、意思決定支援やスーパービジョンという新たな言葉とか定義、概念みたいなものが出てきた中で、言葉だけでなく中身とか、やる意味も定着するととても良い研修になるかと思う。そこに自分も理解をしてついていけないと、聞いたような話をそれっぽく言って、ちゃんと理解ができてなく追いついていなくなるという不安もあるので、自分の中で理解をしていく必要性も感じた。</li> </ul>
皆川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前に国研修に出たときに、いろいろ事情が逼迫していて、ファシリテーターが少なく研修開催も少なく、隣の県でサビ児発管の研修を受けたという話も聞き、なるほどと思った。受講者数を改めて出すと東京と大阪は桁違いであり、それに比べてもファシリテーター数の少なさは本当にすごく、東京ならではの課題と改めて分かった。</li> <li>・例えばだが、実習生を受け入れている機関、OJTを受け入れている機関の認定書みたいなものが配られ、施設に貼り出しができるらしい。ファシリテーターをやってみて実際にすごく勉強になるので、本当に有用だなと思うが、そういうこと含めてファシリテーターをやっていることが加算に加わるなどすると、もっと施設も「行ってらっしゃい」と言うことができると思っている。</li> <li>・今回もファシリテーターができないかのお知らせがあったが、正直2日続くときつい、でも1日だったら何とか捻出できるなど事情もあったりする。時間も9時から19時までだと脳みそが何か落としてしまうような気がするが、たくさん数をこなさないといけないことを考えたときには、もしかして案としてありかもしれないと思いながら聞いていた。</li> </ul>
丹澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年就労支援コースを受けて、今回渡辺さんの報告と共通の話しが出ていた。まず必須の研修ではないので参加する人がそもそもいるかというのは昨年も意見が出ていて、2日間になるとやっぱり現場は忙しいため参加する人はどうだろうと思う。またファシリテーターを探さなくてはいけないから、どうしようとの意見も出ていた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容は本当にすごく勉強になって、日頃、就労移行で仕事しているので、これは本当にスタッフにもぜひ受けてもらいたい研修だと思ったが、実際2日間出るとなると職場の調整をするのも大変だなと思った。ファシリテーターが不足しているということで私は4人ぐらい推薦しているが、そのうち2人が最近見ないので、何が原因で辞められたか分からないが、皆川さんの話があったように、ファシリテーターをやるにあたって東京都ならではの加算として何か考えていただけるとすごく良いと思うので、よろしくお願ひしたい。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろ意見いただいて本当にありがとうございました。実は私も皆川さんや丹澤さんが言われたように加算がつかないかとか、キャリアアップをするということが職員の処遇改善になるような位置づけで東京都の予算権限でできるのではないかとか、来年予算ヒアリングがあったらお願ひしたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな加算をつくるというのは難しいかもしれないが、今言われていたのは幾つかの条件をクリアすると処遇改善の加算になるというのはどうだろうかとのイメージでよいか。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多分、今までの過去の処遇改善がキャリアプランを出しなさいとか、キャリアパスを事業内で出しましょう、それができないと処遇改善の支払いができないといった理屈だったので、何かできないかと思った。</li> <li>・全国的なところまでは難しいにしても、例えば今、障害者施設等の情報を全部出さなくてはいけないので、サビ管が実践研修に出ているとか、コーディネーターをやっている経験者がいるといった人材育成に力を入れている事業所ということを対外的にアピールできるとか。これはお金がかかることではないので、人材育成に力を入れることが事業所側の本当のメリットにもなるし、それがやっぱり利用者の方、利用される当事者の方に還元されていくと、良い循環ができないかと思った。</li> </ul>

## (2) 令和6年度更新研修の実施方法の検討

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは次の検討事項2ということで、令和6年度の更新研修のプログラムについて国研修のでも報告があったが、事務局と更新研修検討チームで実施方法を検討した内容について、会田委員のほうから報告をお願ひしたい。</li> </ul>
会田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料2の令和6年度サービス管理責任者等更新研修実施方法案というものになる。先ほど国研修の報告でも伝えたが、令和6年度から更新研修の時間がプラス7時間増えて13時間となる。それに伴って案を事務局で幾つかパターンを考えてくれ、朝早くから夜までの1日で終わらせようかとか、1日半に分けようかなど、いろいろ案を出して話したが、結論としては集合での演習を1日、というように事務局、検討委員とで話し合ったところ。</li> <li>・動画配信は今までと同じサビ管としてのスーパービジョンや事業所としての自己検証を入れた関係機関との連携も入れつつ、プラスでスーパービジョン180分というところ。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合での演習で追加されるのが演習4の事例検討のスーパービジョン60分、演習後のサービス提供職員等へのスーパービジョンが120分、あと動画配信と集合での演習でやりきれなかった分を後日動画配信として、サビ管としての自己検証30分、研修のまとめ30分という構成で計13時間というように今のところ考えている。</li> <li>・③の後日の動画配信をどういった中身にするかというのはまだ全然詰められていないということと、この研修の資料は今年度末までにできればということだったので、相談しながら打合せできたらと思っている。</li> </ul>
妹尾委員長	・この件で確認や質問等はあるか。
各委員	(特になし)

### (3) 各研修検討チーム今年度及び次年度プログラムなどの検討について

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここからは検討チームのほうに分かれて意見交換をしていただきたいと思う。</li> <li>・基礎研修については来年度の実施プログラムに向けての内容の検討、実践研修においては研修実施に向けての教材作成及び説明会の確認をお願いする。</li> <li>・更新研修については先ほども提案があったとおり、来年度のプログラム内容の検討ということでお願いしたい。16時35分から報告に移りたい。</li> </ul>
-------	--

#### 各検討チームの報告

橋爪副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎研修はこの中では長く開催している研修だけに、ポイントポイントの煮詰めというのは随分進んだイメージがある。ただポイントの煮詰めと全体の流れであったり、背景にあるものはまた別のところがあったり、逆にポイントを煮詰め過ぎていたり、全体像などを持って帰ってもらうまでにはたどり着いていないかというイメージが委員の中ではあることは今日に限らず話に出ていた。</li> <li>・基礎研の大きな目標としては、個別支援計画ができることと支援プロセスを理解することが柱になっているが、個別支援計画を作る段取りの流れとして大きいじれるところがないが、4日目の部分でアセスメントとして、ストレングスとカリフレーミングとか、あとニーズをやっているが、流れや他とのバランスを取っていかないと持ち帰ってもらえるものがまだまだ足りない。</li> <li>・そういう中で、後半の個別支援計画を作成するスキルを身につけるとしたら、前半にアセスメントが取れるようにシートを埋めていく手法もあるのではという話にもなったし、今の研修だと最初から最後まで同グループでやっていくケース像で行くんだけれども、個別支援計画を実際作るとなったときには、同じ情報でもう一度整えてから皆で同じアプローチをしてもらうやり方もあるのではといった、一つ一つのポイントは大きく変えないが、来年できれば構造自体の流れを見直して作りたいという話が出ていた。</li> </ul>
妹尾委員長	・ありがとうございました。実践研修からお願いしたい。
宮田副委員長	・実践研修はこれから実際の演習が始まるので、内容を今詰めている。内容を変えたり、実際のロールプレイが入っていたりなど、分野の共通点を考えるといった視点が

	<p>入っているので、その辺りを詰めている。11月20日には資料を締め切って、12月には進行スライドも全て完成というスケジュールを確認している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほどの国研修でも実践研修の報告があったように、心の糧が大事だとか、プログラムの流れはそろえてといった話が国研修であったので、その辺りの確認をしている。</li> <li>・ただ心の糧はもちろん大事だが、現場に持ち帰れるような内容のほうが良いと思うので、その辺りは都とも確認をしながら押さえるところは押さえつつ、きちんと受講者の方が研修に参加して良かったと思えるような内容にしていければと考えている。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。次、更新研修からお願いしたい。</li> </ul>
会田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とにかく来年度実施されるスーパービジョンの7時間部分をどうするかに絞って話をした。</li> <li>・まだ決まっていない講義2の担当を誰にするか、演習4、5、6の担当をどうするかを決めて、かつ担当に入らない人をおきフリーで全体を見渡せる人も位置づけたので、そういった担当を決めて、今後は毎月集まるペースで打合せをして、今年度末までの資料作成を目指すということを確認した。</li> </ul>
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆様どうもありがとうございました。質問や確認事項などあるか。</li> </ul>
各委員	(特になし)
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の検討事項が進んだことを宣言し、進行を事務局に戻す。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。では、最後に事務連絡になる。第4回検討会までの間に本日の議事録の要旨や資料について確認をしていただくので、ご協力をお願いしたい。</li> <li>・次回の第4回の検討会は3月15日金曜日の午前10時から12時まで、会場は飯田橋の東京都心障害者福祉センターの研修室を予定している。詳細については改めてご案内をさせていただきます。</li> <li>・それでは以上で閉会とする。お忙しい中ご参集いただきありがとうございました。お疲れさまです。</li> </ul> <p style="text-align: center;">(午前16時57分 閉会)</p>